



ピリピ人への手紙 1-4章 ピリピ人と山上の説教

ピリピと山上の説教
マタイ5:1-20

2016.3.8

- ・ 幸いな者は、天国に入ります。天国に入ります。マタイ5:20 天国籍
- ・ 幸いな者は、前4の戒めと後4の戒めは、"善"
 - ・ 善に飲まぬ者、満ちた者 - マタイ4:12 秘訣(飲満)
 - ・ 善の戒めに違ふ者 - 投獄された。 - キリストを大胆に語るから
- マタイ1:11 善の実に満ちた者 ⁴¹³⁷
- マタイ2:2 喜び。 マタイ4:18 釣り物。 マタイ4:19 栄光の富
- ⁵⁴⁶³ 喜び。 喜びみどり。
 - ・ 5463x11 マタイ1:18, マタイ2:18, マタイ4:4
 - ・ 5479x5
 - ・ 4796x2
- ・ 世の光 マタイ2:16
- ・ ピリピ人の善にまざる者が、天国に入ります。マタイ5:20 → マタイ3:4-6 パウロの律法におお善。
 - マタイ5:48 天の父が完全な方だから ← マタイ3:12 パウロは完全ではない
 - マタイ19:19 善、永遠の命、完全にする。 施す。 天国。 主従。
 - 「金持が天国」、「善にまざる者、永遠の命」

ピリピ人への手紙の分析をしてきました。全体を把握するところまで一応終わりましたね。終わりましたが、他の箇所とのつながりを見て、その全体像をもう一度確かめたいと思っています。

ピリピの教会の話は、使徒行伝16章でパウロが牢屋に入れられているところはピリピでの事件ですね。それとマケドニアの教会というふうに言われているところがありますね。第2コリントの中で、ピリピの教会は迫害の中で豊かに施す。他の教会よりもたくさん、極貧の中でも施す豊かなものですよということを言われています。

山上の説教を思い出してみると、山上の説教と繋がっているところがたくさんあります。山上の説教を4つの段落に分けて、最初が「幸いな者、幸いな者」で始まる5章のところ。そこが報いについて。次は「殺してはならないというのを聞いています」という律法について。また今度は天の御国の話で、施す話、祈ること。その神様から報いを受ける。「天の父から報いを受けるにはどうするのか」という報いの話があつて、「裁いてはいけません」という裁き、律法の話になる。報い、律法、報い、律法というところですが、まず最初の報いのところ。それと次の6章の報いのところ。ここは特にピリピを読んだら、山上の説教を連想するはずのところ、たくさんあるということ、まず5章のところを見ました。

出だしのところから「幸いな者よ、幸いな者よ」という8回繰り返しのようになっていますが、その8回の最初と最後は「天の御国はその人のものだからです」という同じ言い方で始まって、同じ言い方で終わっています。「貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」義に飢え渴いている者は満たされるというのと、義のために迫害されている者は、天の御国はその人のものだからというところで終わります。皆さんよく知っているピリピ3章20節「私たちの国籍は天にあります」というところを思い出します。

「幸いな者」はこの中で、4つずつに分けた時の4つ目と、8個目。その前半の終わりと、後半の終わりのところは義。「義に飢え乾いている者」と「義のために迫害されている者」ということで一致しています。「義に飢え渴いている者は、満ち足りるからです」という言い方が4番目にあります。ピリピ4章12節、貧しいからこういうことを言うのではないですと、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。貧しさの中にも、豊かさの中にも、その道を知っています。飽くことにも、飢えることにも、富むことにも、貧しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を知っています。この飢えると満たすというところが、義に飢え乾いている、満たされるということです。

義のために迫害されている者は、神の国に入れますということですが、投獄されているという言葉は、ピリピの最初の段落にたくさん出てきます。福音を大胆に語ったがゆえに投獄されているということです。5章12節、幸いな者の話の終わりのところ

「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。私のために罵られたり、迫害されたり、またありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい、喜び踊りなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのです。あなたがたより前に来た預言者たちもそのように迫害されました」。迫害された者というのは、キリストを大胆に語る者なので、迫害される。「義のために」と言っているところで大切なところは、このキリストの言葉を大胆に語ったので、投獄されて福音を語っているの、投獄されているというパウロの証言、証があって、それはこの「幸いな者よ」というところと呼応しているところだと思います。

ピリピの出だしの祈り、「私は祈っています」という9節から11節までのところの最後に、義のイエスキリストによって与えられる、義の実に満たされている。満たされているという言葉もお腹いっぱい満たされている。こちら(11節)の満たされているは喜びで満たされている。贈り物で満たされている。栄光の富で満たされているということで、貧しい飢えている乾いているという人に対して、満たしてくれる、報いが豊かに豊かにあふれるばかりに与えられている。同じように、ピリピも与えているようなことがここに出ています。

先ほど読んだ山上の説教の5章12節「喜びなさい、喜び踊りなさい」2度喜びというところが目立ちますよね。天の報いは大きい。喜びなさい、喜び踊りなさい。こちら(5463)の喜びなさい。これはピリピに11回出ています。それと似ている、直接でないけれど番号がちよっと違ってますが、同じ喜びが5回出ています。それと共に喜びが2回出ています。18回も喜びにあふれている手紙ですね。同じ節の中に2回出てるのは、1章18節、ここは3回あったかな。「私は喜んでます。今からも喜びます。」2章18節、「あなた方も同じように喜んでください。私と一緒に喜んでください。」4章のところに「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います、喜びなさい。」喜びがダブルで入っているところも3箇所もあるくらい喜びだらけの手紙です。迫害の中で苦しみの中で、喜び踊っている教会。喜びなさいと言われてます。

世の光という言い方、地の塩、世の光というのが書いてあるのは、山上の説教ですけれど、ペリピの2章の16節にも、「いのちの言葉をしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです」という「世の光」も出ていました。それとその後には律法の話がずっと続くのですけれど、律法の話が続いた最後のところ、「迫害する者のために祈りなさい」というようなことも書いてあって、5章20節、報いの段落の最後のところです。 「まことにあなたがたに告げます。もし、あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義に勝るものでないなら、あなたがたは決して天の御国に入れません。」というので報いの段落が終わるのですけれど、パウロは3章4節から6節まで、自分のパリサイ人時代のことを話します。「私は律法についてはパリサイ人、その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。」と言います。しかしその義は損だという話ですね。その段落の最後、ペリピ3章12節のところ、どうにかして復活に達したいんだと。すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもない。完全じゃないのですという言い方のこの「完全でない」というのですが、律法の段落の最後、「迫害されている者の為に祈りなさい。だからあなた方は天の父が完全なように完全でありなさい。」というふうに、山上の説教で完全について言われています。

マタイ19章は天の御国の話がまた出てくる段落になっていますけれど、青年が来ますね。青年が来て「永遠の命を得るにはどうしたらいいですか」というふうに聞きます。それでこういうこと、こういうこと、と言うと、知ってるよとこの人が言う。「まだかけてるものがあります」と。欠けているから、「完全になりたいなら、貧しい者に施しをすると天に宝を積むことになって、その上で私について来なさい、従いなさい」。従いなさいということが強調されてるペリピですけれど、その完全。そうすると、金持ちが天の御国に入ることは難しいと。それで弟子たちにまた話をして、「私の名のために家、兄弟、姉妹、父、母、子、全て捨てた者はいく倍受けて、永遠のいのちを受け継ぎます」。永遠のいのち、完全、天に宝を積むこと、天に入ること、永遠のいのちを持つことということが、ここでも言われています。ペリピの手紙全体で、天の民になるということを実行して喜ぶというように戦っているということが、この山上の説教との繋がりでも言えると思います。